

2022年(令和4年)10月10日(月曜日)

多武 地域の情報

東京新聞

多摩
武蔵野

東久留米 きょうまで創美流華道展

創美流華道の第九十五回華道展と
第二十八回いけばな審査会(東京新



秋を表現した生け花が並ぶ会場 東久留米市で

秋の素材使い生け花50点

聞など後援)が九日、東久留米市前沢の創美流華道会館で始まった。十日まで。入場無料。

ハギやススキ、コスモスなど秋の素材を使った作品約五十点を展示。約二七十年前の生け花の絵の掛け軸も会場に彩りを添え、訪れる人たちを楽しませている。

審査会では、大学生以下の若手が対象の東京新聞賞に日本菓子専門学校一年の原谷灝輝さん(川崎市)が選ばれた。他に東久留米、東大和、東村山、清瀬、西東京の各市長賞も決まった。

十日は午前十時～午後三時開場。展示作品の動画は後日、創美流のホームページで公開する。問い合わせは創美流華道会館(電042(471)4022)へ。

(服部展和)

2022年(令和4年)11月15日



創美流華道展

いけばな審査会に力作

創流272年「第95回 創美流華道展 第28回いけばな審査会」が10月9日から10日、東京都東久留米市・創美流華道会館で開催された。主宰は創美流華道家元、主催は創美華道会、後援は東久留米市、東京新聞、協賛は創美流華道



㊦渡邊華靖家元の大作、㊥華璋副家元の作品

後援会、茶道脩静庵。

創美流ではコロナ禍の花会を関係者のみに限定し動画配信を行ってきたが、今回は一般の来場のもと2日間開催した。

創美流華道家元十五世渡邊華靖氏からは「今回から外部入場。いろいろな気をつけながらだが、ありがたい。小さいながらも続けていけることに感謝したい。8日は十三夜、蒸栗をいただき月を愛でる習慣はなくなってきた。日本の文化は廃れてきているが、花を愛でる習慣を持っていたきたい」と語る。

大床には、華道展では初となる流祖自筆の瓶花図を掲げ、紅白の萩を大

らかに常滑・清水窯の花器(銘 烏城石)にいけ、日本の秋の美しさを再認識させる家元大作。

その隣に渡邊華璋副家元が八手、高砂ユリとピラカンサ、ヒペリカムの

実に紅葉を添えた新生花を披露し、凛とした佇まいを見せる。いけばな審査会では、

東京新聞賞(学生・子供部門)を原谷瀬輝さん(日本菓子専門学校1年)の

作品が受賞。原谷さんは小学校3年生からお稽古を開始。「ネリネに蘭3

種、ブルーファンタジアを花材に軽やかなものは軽やかに、締まるところは締め、色合いを考えて配置。花材の出生を生かした作品」と高い評価を得た。

(神奈川)はコスモス100本に藤袴と黄菊、紅葉をいけ、秋の彩りが楽しい大作で東久留米市長賞を受賞。

東大和市長賞には田中翠雲氏(青森県)、東村山市長賞には高橋樵圃氏(埼玉)、清瀬市長賞には渡邊華芳氏(東京中央)、西東京市長賞には渡邊華扇氏(鴻月会)が受賞した。



東京新聞賞 原谷瀬輝さんの作品



東久留米市長賞 市川碧 waters 氏の作品